2025 年度

国　　語

（３期）

（答はすべて解答用紙に記入すること）

（時　間　50分）

番号		氏名	

清泉女学院中学校

〔一〕

みなさんは同じ商品が、あるお店では一〇〇円、別のお店では二〇〇円で売っていれば、一〇〇円のお店で購入するでしょう。あるいは、同じお手伝いをしても、お父さんは一〇〇円、お母さんは二〇〇円をくれるのであれば、お母さんのお手伝いをしようと思うはずです。ここでは、お父さんのほうが好きだからお父さんを選ぶ、という感情的なことは考えないものとします。

このように人は自分の損得を考えて行動し、自分の利益をできるだけ多くしようと考えて行動をします。伝統的な経済学の世界では、このような人間のモデルを「ホモエコノミクス」と呼んでいます。次にあげた文章【A】は「ホモエコノミクス」を提唱した代表的な人物であるアダム・スミスについての文章です。文章【B】はアダム・スミスの考え方は環境破壊の防止さえ可能であるという理論を紹介したものです。

それぞれの文章【A】・【B】を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のあるものについては、すべて句読点や記号もふくみます。）

【A】

食事をどうやって手に入れるか？

これは経済学の根本的な問題だ。シンプルに見えるが、答えるのはとても難しい。

日々消費するもののうち、私たちが自分で生産するのはごく一部。ほとんどのものは買って手に入れる。キッチンの棚にあるパンも明かりをつけるための電気もそうだ。そのパン1斤や電気1キロワットを生産するためには、世界各地の数千人の人たちが力を合わせる必要がある。

農家の人は小麦を栽培し、パン工場に売る。別の企業はパンを包むための袋をパン工場に売る。パン工場はスーパーマーケットにパンを売り、スーパーマーケットはあなたにパンを売る。ほかにも農家に道具や機械を売る人、食品配達のトラック運転手、そのトラックの整備士、お店を掃除する人、荷物を※1開梱して並べる人。

誰が欠けても、スーパーの棚にパンは並ばない。

こうした生産と流通のプロセスは、時間どおりに、正しい順番でおこなわれなくてはならない。パンだけでなく、書籍も、バービー人形も、爆弾も、風船も、私たちが売買するすべてのものに言えることだ。現代の経済は、とても精巧にできている。

そこで経済学者は考える。①何がその秩序を可能にしているのだろう？

（中略）

1776年、経済学の父と呼ばれるアダム・スミスは、現代の経済学を決定づける一文を書いた。

「我々が食事を手に入れられるのは、肉屋や酒屋やパン屋の善意のおかげではなく、彼らが自分の利益を考えるからである」

アダム・スミスによれば、肉屋は顧客を満足させるために働くが、それは結局お金を手に入れるためである。酒屋もパン屋も、人を喜ばせるためではなく、利益を上げるために働いている。おいしいパンができれば、たくさんの人がそれを買うだろう。[a]パン屋は、買ってもらうためにおいしいパンを焼くのだ。買った人がおいしい食事を楽しむかどうかは関係ない。それはモチベーションにならない。人を動かすのは、利己心[※2]だ。利己心は信用できる。[b]尽きることがない。

アダム・スミスは自由市場こそが効率的な経済の鍵だと説いた。自由と自律を推進する彼の思想は画期的だった。もう面倒な義務や規制はいらない。市場が自由に動けるようにしてやれば、経済は効率よく回りだし、かぎりない[X]を燃料にして正確に動きつづけるはずだ。②みんなが自分の利益のために動けば、みんなが必要なものを手に入れられる。キッチンの棚にはパンがあり、電気はいつでも流れてくる。今夜の食事にもありつける。

一人ひとりの利己心が集まれば、すべてはうまくいく。まわりのことなんか誰も気にしなくていい、まるで③魔法のようなこの理論は、現代でもっとも広く支持される物語となった。

利己心が世界を動かすのだ。初期の経済学者はそう確信した。

「経済学の第一原理は、各人が自己利益のみにもとづいて行動することである」と19世紀の経済学者は書いている。経済を支えるのは花崗岩のようにモザイクをなす自己利益の粒子だ。なんとも見事な光景ではないか。

経済学は、お金の話ではない。それは最初から、[Y]についての話だった。

ある状況から利益を得るために、人はどう行動するか。それが経済学の核心である。どんな状況であっても、私たちは利益を得なくてはならない。それがどんな結果をもたらそうとも。

現在広く受け入れられている経済理論はここから出発している。「経済学的に考える」と私たちが言うとき、そこには誰もが利益のために行動

するという前提がある。理想的ではないかもしれないが、実際そういうものだ。現実を見てみろ。道徳は世の中がどうあってほしいかを語るが、経済学は世の中が実際にどうなのかを語るのだ。

少なくとも、経済学者はそう考えている。

とにかく利益を考えて動け。そのほかは気にしなくていい。利己的に動けば全体がうまくいく。見えざる手がうまく調整してくれる。

（カトリーン・マルサル　高橋璃子　訳『アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か?』より一部改変）

【B】

経済学の父アダム・スミスはこう述べています。「人は自分の安全と利得だけを意図して行動するが、見えざる手に導かれて自分の意図しなかった〈公共の〉目的を促進することになる。」ここでスミスが「見えざる手」と呼んだのは、資本主義を律する市場機構[※3]のことで、資本主義社会においては自己利益の追求こそが社会全体の利益を増進する、といっているのです。これは別の言葉でいえば「道徳や倫理は必要ない」ということです。つまり経済学という学問は、「倫理」を否定することから出発したといえます。

環境問題というのは人々が倫理性を欠いているから起こる、というのが世間一般の常識です。言い換えれば、環境破壊は、資本主義が前提とする私的所有制[※4]の下での個人や企業の自己利益の追求によって引き起こされる、と思っているはずです。しかし経済学者にいわせれば、私的所有制とは、まさに環境問題を解決するために導入された制度だということになります。

かつて人々は誰のものでもない草原で牛を自由に放牧していました。一頭牛を増やせば、それだけ多く肉やミルクがとれます。したがって、人々は牛をどんどん増やしていくことになります。その結果、牧草は枯渇し、痩せこけた牛がわずかに残された牧草を求めて争い合う、という事態が到来することになります。これこそ「元祖」環境問題です。経済学者は、それは草原が誰の所有でもない共有地であるがゆえの「共有地の悲劇」だと言うのです。

そこで私的所有制が確立すると、草原が分割され、その一画が牧場として所有されるようになります。牛をさらに一頭飼うかどうかは、その一頭が新たに牧草を食べることによって、ほかの牛の発育にどれだけ影響を及ぼすか、を考慮して決めるようになります。他人に牧場を貸すときも、牧草の価値に応じた賃料[※5]を請求するようになるはずです。牧草は合理的に管理され、「共有地の悲劇」から救われることになります。つまり、私

的所有制の下での④自己利益の追求こそが環境破壊を防止することになる、というわけです。

（岩井克人「経済の論理／環境の倫理」『ひとりひとりが築く新しい社会システム』より一部改変）

※1　開梱…荷物を開いて取り出したりすること。

※2　利己心…他人のことは気にかけずに、自分の利益を考える心。

※3　市場機構…市場のシステム。

※4　私的所有制…モノや土地などが誰かの所有する財産であるとする制度。

※5　賃料…貸し出す料金。

問一　――線①「何がその秩序を可能にしているのだろう」とありますが、その秩序が成り立っているのはなぜでしょうか。その理由として、もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　人は自分の利益のために働くだけではなく、実際は各自が社会の秩序を考えて行動しているから。

イ　自己利益を追求することで、社会の秩序が成立することを人々がモチベーションにしているから。

ウ　それぞれが自己利益を追求することで、かえって経済の効率性が生まれ、社会の秩序が誕生するから。

エ　自分の利益のために働いたとしても、人々が善意を持ってさえいれば、社会の秩序が成立するから。

オ　生産や流通が正しく行われ、社会の秩序が安定しているので、自己利益の追求が可能になっているから。

問二　[a]と[b]に入る語句の組み合わせとして、ふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　a　しかも　　b　だが
イ　a　だから　　b　しかし
ウ　a　それゆえ　　b　だから
エ　a　だから　　b　しかも
オ　a　なぜなら　　b　さらに

問三　[X]と[Y]に入る語句としてもっともふさわしいものそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

[X]…ア　食事　　イ　市場　　ウ　善意　　エ　利己心　　オ　経済学
[Y]…ア　人間　　イ　金銭　　ウ　経済　　エ　流通　　オ　秩序

問四　――線②「みんなが自分の利益のために動けば、みんなが必要なものを手に入れられる」とありますが、例えばパン屋が自分の利益を追求し、利益を拡大しようとパンの値段を何倍にも高くすると、「みんなが必要なものを手に入れられる」とは言えません。しかし、【A】の経済学によれば、パン屋はこのようなことを行いません。その理由としてふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　パンの値段を高くすると、パンの原材料の値段が下がってしまい、パンの流通が減ってしまうから。
イ　パンの値段を高く設定してしまうと、パンに関する流通や生産に関わる人々の利益も拡大するから。
ウ　パンの値段を高くすることで自己利益は得られるが、人々が食べ物を手に入れにくくなるから。
エ　パンの値段を高く設定すれば、おいしいパンが作れなくなり、人々が買わなくなってしまうから。
オ　パンの値段を高く設定すれば、お客がパンを買わなくなってしまい、利益が減ってしまうから。

問五　――線③「魔法のようなこの理論」とあるが、それはどのような考え方ですか。「～という考え方」に続く形で、【B】から二十二字でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問六　【A】の本のタイトルは『アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か？』というもので、このタイトルには筆者のアダム・スミスの考え方への批判が含まれています。実際、【A】の続きには次のような一文があります。

アダム・スミスは夕食のテーブルで、肉屋やパン屋の善意のことは考えなかった。取引は彼らの利益になるのだから、善意の入り込む余地はない。自分が食事にありつけるのは、人々の利己心のおかげだ。

いや、本当にそうだろうか。

ちなみにそのステーキ、誰が焼いたんですか？

筆者は「いや、本当にそうだろうか」とアダム・スミスの考え方に疑問を持ち、「ちなみにそのステーキ、誰が焼いたんですか」と皮肉を投げかけています。この内容を踏まえたうえで、次の資料1・2の［Z］に共通する語句を語群から選び、記号で答えなさい。

資料1

［Z］はつねに国家の富に貢献しているが、経済学者はその価値を※1貶めつづけてきた。今こそ、新しい経済の話が必要だ。

イギリスの新聞「ガーディアン」に掲載された本書へのコメント

※1　貶め…軽視する、見下すこと。

資料２

アダム・スミスが研究に勤（いそ）しむ※２間、身の周りの世話をしたのは誰!?

［　Z　］不在で欠陥（けっかん）だらけの経済神話を終わらせ、新たな社会を志向する21世紀の経済本。

本書を出版した河出書房（しょぼう）新社のホームページ記載の紹介コメント

※２　勤（いそ）しむ…熱心に取り組むこと。

【語群】

ア　民衆
イ　農民
ウ　商人
エ　労働者
オ　学者
カ　女性
キ　子ども
ク　外国人

問七　――線④「自己利益の追求こそが環境破壊を防止する」とありますが、次の図は「自己利益の追求こそが環境破壊が防止する」という考えを【B】の例を使いながら図で示したものです。図のⅠ～Ⅳにあてはまる語句をそれぞれ指定された字数で【A】からぬき出して答えなさい。

共有地の悲劇　「元祖」環境問題

アダム・スミスの考え方で環境破壊を防止

これ以上牛を増やすと、うちの牧場の草がなくなって、今いる牛が育たない。牛はこれくらいの数にしておくか。

牧草の値段は○○円だよ。これ以上売ると来年育たなくなり損をするから、今年売れる牧草の量はこれだけだよ。

Ⅱ　8字 **がなくとも、各自が市場で自由に利益を追求することで、合理的に牧草が管理される。**

これ以上牛を増やすと、エサ代がかかりすぎて、かえって損をしてしまうよ。しかも、牧草の在庫が少なくなり、値上がりすると、利益が少なくなる。

誰も社会や環境のことなど考えず、各自が **Ⅲ　12字** **行動しているだけなのだが、まるで** **Ⅳ　5字** **に導かれるように、全体が効率よくまわり秩序が生まれ、環境も守られる。**

⇩

「自己利益の追求こそが環境破壊を防止」

問八　次の文章は「ホモエコノミクス」に関する有名な実験についてのものです。文章を読んで、後の問いにそれぞれ答えなさい。

手始めに次のような実験場面をイメージしてください。互いに未知のAさん、Bさんがペアにされ、二人の間で一万円を分ける経済実験に参加します。実験は二つのステップで進みます。最初にAさんが実験者から一万円を渡され、「分け手」として一万円の分配方法について、Bさんに提案するように言われます。次にBが「受け手」として、Aの提案を受け入れるか拒否するかを決定します。もしBがAの分配提案を受け入れるなら双方の取り分はそのまま確定しますが、納得せず拒否した場合には、双方の取り分とも0円になってしまいます。

BはAの提案内容をいっさい変更できず、受け入れるか否かを決めるだけなので、この実験ゲームは、最後通告ゲームと呼ばれます。実験では、このゲームをただ一回だけ、分け手、受け手の役割を交換せず、コミュニケーションなしで行います。さて、どのような分配のパターンが見られるでしょうか。

この極めて単純な実験ゲームは、経済学者や心理学者を中心に、世界各地のラボでこれまで何千回と実施されてきました。結果もまた単純明快です。日本、アメリカ、ヨーロッパなどでこの実験を行うと、Bに金額の四〇～五〇％を渡す、ほぼ平等の分配がもっとも頻繁に提案され、受け手もその提案をほぼ確実に受け入れます。二〇％を下回るような少額の提案はまれであり、また行われたとしても多くの場合に拒否されます。

読者の皆さんは、この結果を聞いてアタリマエと思われるでしょう。⑤「常識的」に考えれば、そこにはなんの驚きもありません。しかし、この結果は、経済学の伝統的な「ホモエコノミクス（経済人）モデル」からすれば驚きと言えます。なぜでしょうか。

（亀田達也『モラルの起源』より一部改変）

(1)　――線⑤「「常識的」に考えれば、そこに驚きもありません」とありますが、なぜですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　普通に考えて全体の二〇％しか分配されないのであれば、受け取る側は不満を覚えて、必ずそれを拒否するはずであり、その結果にとくに驚きはないから。

イ　日本、アメリカ、ヨーロッパなどでは分配に関する経済的なルールが統一されているので、平等な分配が行われたり、不公平な分配が拒否されたりするのは当たり前だと考えられるから。

ウ　AがBに対して平等な分配をしたり、Bが平等ではない分配を拒否したりするのは、次のゲームでBが分配する側になったときによりよい結果を得るための戦略であると理解できるから。

エ　二〇％という低い分配を提示された場合は、人は不満を感じるものであり、たとえ相手が得をしたとしても、相手の提案を受け入れたくないという心情を理解できるから。

オ　他人と分配するときにある程度公平に分配しようとしたり、あるいは少ない分配をされたら不満に感じて拒否したりするようなことは、私たちの感覚として理解できることだから。

(2)　もしあなたが「分け手」としてこの実験に参加する場合、どのような提案をすべきでしょうか。あなた（分け手）と相手（受け手）との分配する金額をそれぞれ記入し、また、なぜその金額を提示したのか、その理由を六十字以上八十字以内で答えなさい。ただし、次の実験の条件を踏まえて答えなさい。

実験の条件

①　あなたも相手も「ホモエコノミクス」です。

②　「ホモエコノミクス」はできる限り自己の利益を拡大することを必ず目指すものとします。

③　あなたも分配する相手もお互いが「ホモエコノミクス」であることを知っています。

④　分配するお金は本文と同じ一万円です。分配は必ず一円以上を提示すること。

〔二〕

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。（字数制限のあるものについては、すべて句読点や記号をふくみます。）

小学校五年生の伊山進は、市民プールで、二つ年上の浅尾広一と知り合った。広一は、交通事故で父を失い、自分も左腕を失っていた。彼は片手で自転車に乗れていたが、ある時坂道で倒れて以来、乗れなくなっていた。広一の母友子はジャズピアニストで、右手だけでピアノを弾く広一に伴奏をつけていた。進は広一の家で、彼が右手で弾くジャズの名曲「サマータイム」のメロディに魅せられていたが、広一は、母の再婚の騒ぎがあってから元気がなかった。

ある日、広一と会った進は、姉の佳奈の作るゼリーを食べに来ないか、と家に誘った。

佳奈と広一くんがピアノを弾いている。まるで、一つ覚えのようなサマータイム。あの下手くその佳奈に、広一くんの伴奏が出来るのは、けがの功名だ。ぼくがしょっちゅう口笛を吹いているから、サマータイムのメロディーを覚えてしまったんだ。

広一くんは、まるで生き返ったように、鍵盤をたたいていた。彼の中に光が戻った。本当にピアノが好きなんだなと思う。それでも、①ぼくが一番、広一くんの動かない左手を意識するのは、彼がピアノに向かっている時だ。

時間をかけて着がえをする時、さいふからお金を出す時、足で押さえてジュースの缶を開ける時、彼はどんな時でも、一人で右腕一本で落ち着いてやってのけた。ぼくがちょっとでも手伝うそぶりを見せると、きっぱりと断った。

でも、ピアノは違うんだ。どんなに、両手で、お母さんのようにがんがん弾きたいだろうなと思ってしまうよ。左手の伴奏をつけてくれる人を、彼がどれほどしみじみと好きになってしまうか、わかるような気がした。

佳奈のやつ！

二人は息がぴったりとは言いがたかった。やっぱり佳奈は下手くそだ。それでも広一くんは、めいっぱい楽しそうだった。佳奈も広一くんも、あんまり世界中で二人っきりって顔をしているもんだから、ぼくはだいぶいじけてしまって、ベランダごし、道路の向こうのB※―2の近くに咲いている②キョウチクトウの群れを眺めた。毒々しいピンク。濃いピンク。佳奈のサンドレスと同じ、日差しに負けない強い色が、目のくらむような輝きをはなっていた。

多少の予感はあったけれど、ぼくはすっかり佳奈に広一くんを取られてしまった。二人は学校が違ったが、夕方や週末にちょこちょこ会っているみたいだった。なんと、自転車の特訓を始めたという。病院の隣の広い東公園の土の広場で、ぼくの自転車を使って練習する。広一くんの自転車は、前に転んだ時、ハンドルがこわれてそのままになっていた。

ぼくは一緒に行かなかった。行っても良かったんだけど、やっぱり、ちょっと気がひけたんだよね。正直言って悔しかった。男のぼくより、佳奈なんかのほうがいいのかって。そんなに何回も会ったわけじゃないのに、ぼくはすっかり広一くんに魅かれていたんだ。

ものすごく特別な人って感じがした。彼の内側の光にぼくは感電する。あの感情をいつわらない、ちょっとはにかんだ、カンの鋭い言葉がたまらない。もちろん、腕のこと抜きで、広一くんは考えられなかったけれど、［　A　］。

しょうがないな。姉弟だし、きっと似たようなこと思ってたんだ。佳奈は、十二歳だけど、女だし、やっぱ、ホレたんだろうな。よく、あっちこっち、すり傷をこさえて帰ってきた。あのすましやの佳奈が、大事な服や顔をすっかり汚して、うれしそうな様子で帰ってくる。

――今日は調子が良かったわ。もうちょっとじゃないかなあ。でも、なんで、あんなにこわがるのかなあ。ほんと、あんた以下だわ。

そんな風に自転車の特訓の話をぼくにした。

駆け足で秋は過ぎた。そして、あれは、十一月の中頃だったと思う。③ぼくの自転車が見るも無残にがたがたにこわされてしまったんだ。犯人は佳奈だった。

どんな風にぶっこわしたかは、いまだに白状しない。理由は一言、あのイクジナシ！　きっと広一くんとけんかをしたんだ。もちろんぼくは怒った。両親は、もっと怒った。そして、その結果はというと、新品は買ってもらえず、佳奈の赤いチャリがぼくのところにまわってきたんだ！

ぼくは、腹立ちがおさまらないまま、広一くんを訪ねた。ろくでもないことになっている気がしたので、場合によったら謝らないといけなかった。でも、何度行っても会えない。いつも留守なんだ。ぼくは彼の電話番号を知らなかったが、［　B　］佳奈に聞く気はおこらなかったね。そして、そのうち隣に住む叔母さんから、広一くんと友子さんが引っ越したことを聞いたんだ。

一ヶ月くらいして、広一くんから手紙が届いた。ぼく宛と佳奈宛の二通。それは、あっけないほど短い手紙で、友子さんのことも、佳奈や自転車のことも、何一つ触れてなかった。佳奈宛の手紙の内容は知らない。ぼくはやはり短い返事を出し、佳奈はついに何も書かなかったと思う。

C　、すべてがささやかな夏の夢に変わってしまった。それっきり、連絡はとだえ、彼のこと、彼の手のこと、プールやゼリーや自転車の思い出も、いつしか記憶の片隅に薄れていった。

ピアノの音だけが残った。ぼくは、ピアノ教室に通い始め、やがてヤル気のない姉を追い抜いた。それでも、ぼくはなぜ、柄にもなく、ピアノを弾き続けるのか、自分でもよくわかっていなかった。片手のピアニストの姿は、もう頭にない。D　、ぼくの体のどこかに、あの夏に刻まれた音が生きていたのだろうか。強いタッチの右手の和音。友子さんの嵐のような酔っぱらいプレイ。佳奈と広一くんのちぐはぐな連弾、サマータイム。

高校生になった進はジャズ研究会に入った。かつて広一がほめていた、彼の母の演奏を聴きたくなり、浅尾友子のレコードを探して二枚を手に入れた。

進の自転車をこわした佳奈は、それ以来広一のことは口にしなかった。進には、佳奈が何かにこだわり続けている気がしていた。

八月。夏の終わり。

ブザーに答えたのは、佳奈だった。

「進！　お客さんっ」

玄関から、かん高い声で叫ぶと、佳奈はそのまま外に出て行ってしまった。

ぼくはしばらく、その長身の青年がわからなかった。

「表札、変わっていないから、大丈夫だと思って」

そう言って、照れたようににやっとした、その笑い方、目の光、頭の奥のピントが突然ぴたりと合った。

その時の感情はb||え||も言われない。思わず、声がうわずっていた。

「伊山くん、あんまり変わんないな」

「そ、そうかな。……広一くんは、変わったなあ！」
ぼくは、まじまじと眺めまわしてしまった。初対面のプールの時と、そっくりの失礼な目つきでね。目のやり場に迷う、例のはにかんだ表情が、ぼくの胸を熱くした。
大学一年生の彼は、家族と離れて、この近くに下宿しているという。
「お母さん、元気？」
ぼくが聞くと、広一くんは、やはり、どことなくはにかんだ様子でにっこりした。
「うん。まじめに主婦やってる。オレ、妹が出来たよ。まだ、赤ちゃんだけど」
「……ああ結婚したんだね！　幸せ？」
「うん。なかなか……と思う」
微妙に間のあく、とぎれとぎれの会話に笑ってしまった。なんだか照れくさくてだめだ。昔みたいに素直に話せない気がする。佳奈はどこに行ったんだろうと思いながら、口にするのをためらった。
広一くんはぽつぽつと自分のことをしゃべりだした。主に大学の話だった。理工系の学校に行っている彼は、コンピューターのハードの研究に熱中していた。ぼくは適当にあいづちを打っていたが、不得手な分野でよくわからない。相変わらず光の強い彼の目を見ながら、信じられないくらい大人っぽくなったなとつくづく思った。もともと大人っぽい子供だったが、早くも本物の大人になってしまった。
ぼくは十九歳の浅尾広一にすっかりとまどった。昔話なんか持ち出す雰囲気じゃないんだ。ぼくはなつかしさにふるえながらも、彼との距離感をつかみかねていた。だから、なんだか、おそるおそるって感じで尋ねた。
「ピアノ、やってる？」
「ああ、そう言えば弾かないかな」
広一くんはしごくあっさりと答えた。
その時の失望があまり深かったので、ぼくは広一くんの伴奏をするためにピアノを続けていたような気持ちになった。ぼくはジャズ研の話が出来なくなった。サマータイムを弾けるようになったことを言うのもやめた。何も簡単なことじゃないか。こう、言えばいいんだ。

――たまには弾いてみない？実は、ぼく、やってんだよな。ピアノ。ねえ、ちょっと、一緒に弾こうよ！

ぼくは、きっと、ひどく女々しい性格なんだと思う。それがわかっているから、おセンチに見られるのを、やたらと恐れるんじゃないかな。妙に格好をつけちゃうんだ。広一くんに部活のことを聞かれて、ぼくはスカした野郎になった。

「ちょっと、ジャズ、とかやってるけど……ピアノ」

④最後につけ加えると、突然、まっかっかになってしまった。

「ああ」

広一くんの目が輝いた。

「君が！」

それは、心に深々と残るような言い方だった。意外、という驚きじゃなく、つまり、つまり、なんか、まるで……。うん、あんまり、おセンチなこと、言うのはやめるけど、でも彼は喜んだ。喜んだんだ！

「これは、母さんに言わないと」

広一くんは言った。

「もっと、うまくなったら、弾くから。君や君のお母さんに聴いてもらえるように、もっと練習して」

ぼくは言った。広一くんは大きくうなずいた。八月の太陽のように、明るい強いまなざしがまっすぐにぼくを見る。

「ああ、ぜひね。本当にね」

何かがつながった！あの遠い日から今までの、すべての夏がピアノの音で数珠つなぎになった――そんな最高の感じがしたんだよ。

帰り際、玄関で広一くんは言った。

「お姉さんによろしく」

そこで、ぼくは尋ねた。

「昔、佳奈とけんかしたの？」

広一くんは、ふっと顔をくずした。

「そう。オレ、すごい怒らせちゃった。みっともないね。びびっちゃって、ぜんぜん、自転車、乗れなかったんだ」
「あいつ、ぼくの自転車、めたくたにこわしたんだぜ」
「えっ？」
広一くんは目を見張った。でも、ぼくはかぶりをふった。
「なんでもないよ」
佳奈の話は、ぼくがしないほうがいいような気がした。

アネキはきっと一目で広一くんがわかったんだと思う。ぼくは、妙な確信があった。それで、あいつは逃げ出した。なぜ？
それは、佳奈が自転車をがたがたにしたり、手紙の返事を書かなかったり、ぼくのピアノを聴きたがったりするのと、同じことなんじゃないかな。もしかすると、佳奈は、ぼくよりもっと、〝六年前〟をそっくり心に残してこわすことが出来ずにいるのかもしれない。
ぼくは、そんなことを考えながら、五階の階段の踊り場から下をのぞいた。ここから、C―3の入口がよく見えた。ぼくは広一くんをエレベーターのところまで、送ってきたのだ。
そして、ぼくは佳奈の姿を見つけた。なんだか背筋が寒くなるような感じがして、あわてて階段を二、三歩降りかけた。⑤まずいよ。それは、まずいよ、佳奈！
彼女は自分の自転車のハンドルにつかまって立っていた。厳しい午後の太陽に照らされて、長い巻き毛が白っぽく乾いて見えた。ぼくはわかった。彼女は、広一くんと入れ替わりに家を出てから、ずっとそこにいるんだ。昔より一まわり大きな赤い自転車を引き出して、いつ出てくるかわからない広一くんをこの炎天下にずっと待っていたんだ。真っ白い強烈な日光の中、帽子もかぶらず、きっと触れると手が痛いほど髪の毛を熱くして……たくさんたくさん汗をかき、小生意気な頭をくらくらさせて……。
ぼくにとって広一くんがピアノであるのと同様、佳奈にとって、彼は［　E　］だった。ぼくは、そのバカげた感情が痛いほどわかった。でも、だめだよ。彼はもう大人なんだ。ぼくだって、彼にピアノを弾けとは言わなかったんだ。浅尾広一に、今さら自転車のことなんかで恥をかかすのはやめろよ。

「佳奈ぁ！」

ぼくはどなった。彼女は上を見上げた。でも間に合わない。広一くんが出てきてしまった。⑥二人は顔を合わせ、言葉を交わした。それはすごく自然な感じに見えた。やがて、広一くんは佳奈からハンドルを受け取ると、ゆっくりと赤い自転車をひいて歩きだした。ぼくは鼓動が速くなった。乗る気だろうか。乗れるんだろうか。

広一くんがサドルにまたがる。ああ、乗る気だ。右手がハンドルを握り直す。やっぱり乗れるんだ。そして、彼は佳奈に何かを言った。

白いスカートの佳奈が荷台に横座りして、広一くんの背中をかかえた。あっと思う間もないすばやい動作だった。

二人乗りの自転車が軽々とスタートをきる。広一くんは、やや腰を浮かしぎみにペダルをこいだ。車体は少しのぐらつきも見せない。ぼくは息をつめて見ていた。なかなか、あんなスマートなスタートは出来るもんじゃないって、思いながら。

後ろに佳奈という荷物を乗せて、右腕一本のハンドルさばきで、彼の自転車はぐんぐん加速していく。二つの車輪が八月の光をけちらした。彼等の進む方向、B―2のキョウチクトウの垣根。そのすさまじい桃色の中に赤い自転車は一気に溶けていくようだ。

ぼくの頭の中でふいにピアノの音が踊り出した。

右手だけの力強いサマータイム！

（佐藤多佳子『サマータイム』より一部改変）

※　B―2…進と佳奈が暮らす団地の建物に付けられた記号と番号。後出の「C―3」も同じ。

問一　═══線a「けがの功名」・b「えも言われない」のここでの意味としてふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

a

ア　負けている状態だったのに、いつのまにか誰かを追い抜くこと。
イ　思いがけないことが、さらに思いがけない結果を生み出すこと。
ウ　なにげなくしたことが、思いがけなくよい結果をもたらすこと。
エ　苦手なことが、いつのまにか得意なものになっているということ。
オ　失敗を十分に経験したからこそ、人から尊敬されるようになること。

b

ア　驚きでまったく言葉も出ない
イ　言葉では言いあらわせない
ウ　思いがけず笑うしかない
エ　エモいという思いとはちがう
オ　信じられなくて言葉が出ない

問二　――線①「ぼくが一番、広一くんの動かない左手を意識するのは、彼がピアノに向かっている時だ」とありますが、進はどうしてそのように意識するのですか。その説明として、もっともふさわしいもの次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　広一がなんでも右腕一本でやってのけてしまうことを進は知っていたが、ピアノ演奏という、とても難しいことまでできてしまうのに驚いたから。

イ　広一は色々なことを右腕一本でやってのけていて、複雑なピアノ曲であっても上手に弾きこなすことができるということを知っていたから。

ウ　広一と接していると、彼に左腕がないことを忘れてしまいそうなほど、右腕一本でなんでもやってのけてしまうため、ピアノも同様だから。

エ　なんでも右腕一本でやってのける広一だったが、ピアノだけはお母さんにはかなわなかったので、進は彼の右腕の動きに弱点を見つけてしまったから。

オ　広一はなんでも右腕一本でやってのけるが、彼がどれだけ自由自在にピアノを弾きたがっているかということを、進はよくわかっていたから。

問三　――線②「キョウチクトウの群れ」とあり、進の目に映った光景が描かれています。これは、季節が夏であることを示していますが、それ以外に、この小説の中でどのような効果を生み出していますか。その説明として、もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　きれいさが行き過ぎて、いやな感じさえする花の様子が、そのうち佳奈が広一とケンカするのではないかということを暗に示す効果。

イ　やたらと派手に咲き乱れる花の様子が、佳奈の、進に対して勝ち誇ったような気分を目立たせる効果。

ウ　いやになるくらいに派手な色で咲いている花の姿に、広一には佳奈はふさわしくないのでは、という進の予感を示す効果。

エ　やたらと派手で目立ち過ぎる花の色が、この時の佳奈に対する進の感情を引き立たせる効果。

オ　いやでも目に飛び込んでくる派手な花の色が、暑さでマヒしてきた進の頭の中を示す効果。

問四　A に入る言葉としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　それはまったく問題外なんだ
イ　それは大きな問題なんだ
ウ　それは相変わらず気になるんだ
エ　それがすべてじゃないんだ
オ　それは忘れられないことなんだ

問五　――線③「ぼくの自転車が見るも無残にがたがたにこわされてしまったんだ。犯人は佳奈だった」とありますが、佳奈はどうして進の自転車をこわしたのでしょうか。この小説の全体から読み取れる佳奈の心情をふまえて、その説明としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　広一のことが好きになっていけばいくほど、大きなハンディを背負っている彼を、自分では助けてあげられないことがわかり、そのやりきれない怒りを自転車にぶつけたため。
イ　広一のことがとても好きで手伝い続けたが、いっこうに彼が乗れるようにならないため、彼のいくじなさにとうとう腹を立てたのと同時に、自分をぶんなぐりたい気持ちが高まったため。
ウ　広一のことがとても好きになったからこそ、彼のために一生懸命手伝ったがうまくいかず、そのことをどうにも受け入れられない気持ちが爆発し、進の自転車に八つ当たりしたため。
エ　広一のことを好きになっている自分の気持ちに気づかないまま、彼がまた自転車に乗れるように励まし続けたが、彼が迷惑そうであることに気づいてとても頭にきたため。
オ　広一のことをとても好きになり、彼といっしょに自転車乗りにチャレンジする楽しさにひたっているうちに、彼の大きなハンディについて忘れていた自分にどうにも腹がたったため。

問六　B ～ D に入る語句としてもっともふさわしいものはどれですか。次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。（ただし、それぞれの記号は一度しか使えません。）

ア　あっというまに　　イ　さて　　ウ　ようやく　　エ　ところで

オ　ただ　　カ　無理なく　　キ　意地でも

問七　――線④「最後につけ加えると、突然、まっかっかになってしまった」とありますが、進はなぜこうなったのですか。その説明としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　部活のことを聞かれて、最後に「ピアノ」と、広一から影響を受けた大事なことを付け加えた瞬間に、本人を前にして、急に恥ずかしくなってしまったから。

イ　部活のことを聞かれて、最後に「ピアノ」と言った瞬間に、そのことを隠していた自分がどうにも許せなくなり、急に頭に血が上ってしまったから。

ウ　広一から部活のことを聞かれると、ジャズをやっていることを告げ、「ピアノ」と付け加えた瞬間に、彼が笑うにちがいないという思いがこみ上げたから。

エ　部活のことを聞かれてジャズ研のことを言い、広一との関係の上で一番大切な「ピアノ」という言葉を口にした瞬間に、広一へのあこがれの気持ちが噴き出したから。

オ　部活のことを聞かれてジャズのことを口にし、そして「ピアノ」と、言えなかったことを付け加えた瞬間に、広一に対して一気に負い目を感じたから。

問八　――線⑤「まずいよ。それは、まずいよ、佳奈！」と思った進は、佳奈の思いをどのようなものとしてとらえたのですか。その説明としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　進は、佳奈が何かにこだわっていると感じてきていて、今、強烈な日光に焼かれながらも広一が出てくるのをじっと待っている彼女の姿を見て、それが意外にも自転車だったのだとようやく気づいた。

イ　進は、佳奈が六年前の広一との出来事をそのままの形で心に留めていると思い、広一が好きだったからこそ、あの時うまくいかず、けんかにまでなったことを、今こそやり遂げようしていると思った。

ウ　進は、佳奈が厳しい午後の太陽に照らされて、昔より一まわり大きな赤い自転車を引き出し、昔やり遂げられなかったことを、今こそやり遂げ満足しようとしているのだと思った。

エ　進は、佳奈が広一と入れ替わりに家を出てから、いつ出てくるかわからない彼をこの炎天下にずっと待っていたことを知り、広一を自転車にうまく乗れるようにしたいと六年間思い続けてきたのだと気づいた。

オ　進は、佳奈が何かにこだわっていると感じてきていたが、「けんかするほど仲がよい」という言葉のように、けんかをしたからこそ佳奈は広一のことが忘れられず、六年間思い続けてきたのだと今知った。

問九　E に入る言葉を文中からぬき出して答えなさい。

問十　――線⑥「二人は顔を合わせ、言葉を交わした。それはすごく自然な感じに見えた」とありますが、二人はどんな言葉を交わしたと思いますか。この小説の展開に沿うように、二人の会話を想像して書いてみてください。
（ただし、解答用紙の指示にしたがい、二人の会話が交互になるように書くこと。）

〔三〕 次の(1)、(2)にそれぞれ答えなさい。

(1) 次の□にそれぞれ漢字を入れ、四字熟語を完成させなさい。

① 大□晩□
② 電□石□
③ 心□一□
④ 温□知□
⑤ 晴□雨□
⑥ 異□同□
⑦ 空□絶□

(2) 次の――について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに、それぞれ改めなさい。

① この部屋はカイテキだ。
② 父は飲食店をイトナむ。
③ 水に塩が溶(と)けてマじる。
④ 年老いた母をヤシナう。
⑤ 人口減少にハドめがきかない。
⑥ 脳裏によみがえる記憶。
⑦ 迷子を探す。
⑧ 服の寸法をはかる。